

# ポポポ 新聞

[Ponpoko News]

第75号



=発行=

2021年8月29日

喜多見ポンポコ会議

<http://ponpoko.jpn.org>

## 【神話の概要】

スサノオは父イザナキの命令を聞かず追放され、姉アマテラスのいる高天原に行きますが、乱暴狼藉を働いたためアマテラスは岩屋に隠れてしまいます。世界は暗闇となり、神々の計略でアマテラスを岩屋から引き出し、スサノオは再び追放されます。スサノオは肥河（現在の斐伊川）のほとりに降り立ち、八岐大蛇（ヤマタノオロチ）の生贄にされそうになっていた稲田姫を救うため大蛇を退治、尾を斬って出てきたのが草薙剣（くさなぎのつるぎ）です。スサノオは稲田姫と結婚し日本初の和歌「八雲たつ出雲八重垣 妻ごみに 八重垣作る その八重垣を」を詠みました。



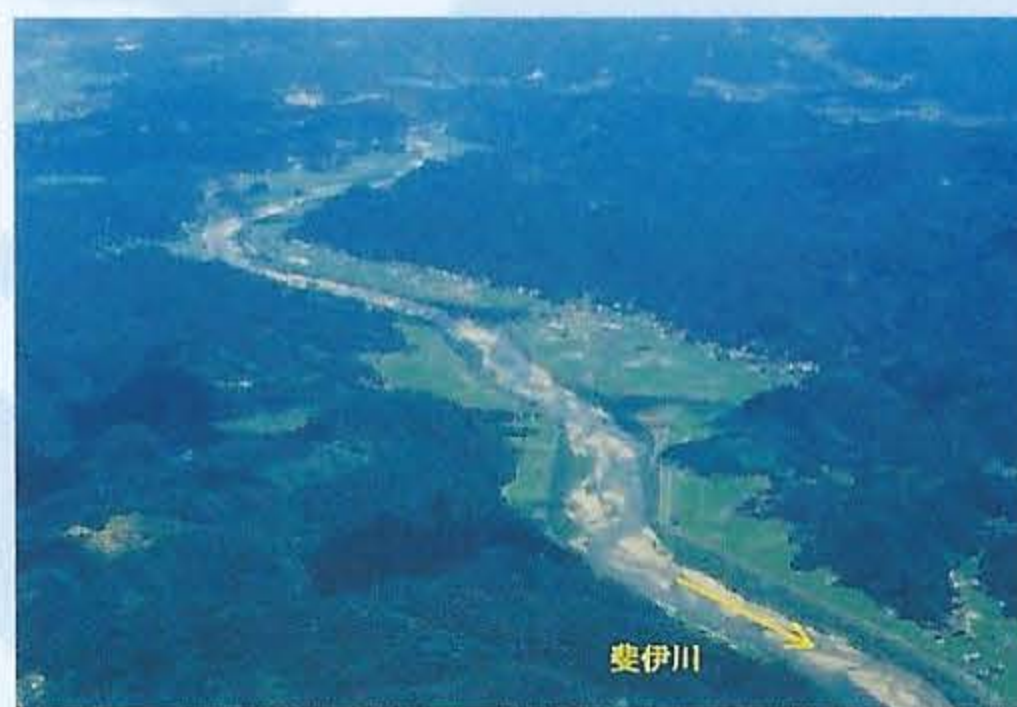
須佐神社 スサノオ終焉の地で御魂鎮の霊地、大杉は樹齢約1300年／出雲市

## 氷川は斐伊川から？

氷川神社という名の神社は、荒川と多摩川沿いに多いそうです。大宮氷川神社の社記によると「出雲族の兄多毛比命が朝廷の命により武蔵国造となって当社を奉崇した」、社名については「出雲の大河である斐伊川にちなむ」「霊験あらたかな泉を表す」という2説があるそうです。

## 斐伊川の中下流では

「たたら」での廃砂により、斐伊川の中下流では川底が上がり洪水を起こしやすくなる一方で、土砂を利用して新田開発を行うなど有効利用してきました。近年は上流からの土砂供給減少や都市化に対応した治水事業が続けられています。



斐伊川中流部 砂鉄採取に伴う廃砂により、網状砂州が発達した砂河川です(写真:国交省資料)

参考資料:  
奥出雲町HP、雲南市HP、武光誠『一冊でわかる古事記』2012.7、日本農業遺産「たたら製鉄に由来する奥出雲の資源循環型農業」2019.2、国土交通省河川局「斐伊川水系河川整備基本方針」2009.3 変更など

## 斐伊川の最上流では

奥出雲町は、高天原を追放されたスサノオが降り立った地であり、稲田姫の生誕地でもあります。世界で唯一「たたら製鉄」を継承しています。「たたら」といえば映画『もののけ姫』が思い浮かびますが、ここでは、原料の砂鉄を採取するため山を切り崩す一方で跡地に牛糞堆肥やソバを蒔き棚田に再生してきました。この棚田では「仁多米」、農耕や運搬の役割を担った和牛は「仁多牛」、ソバは日本三大蕎麦の一つ「出雲そば」、燃料として輪伐してきた薪炭林ではシイタケが栽培され、同時に生物多様性も維持されるという世界に類のないシステムを構築しています。2019年に日本農業遺産に認定され、現在は世界農業遺産の認定を目指しています。



出雲大社 スサノオの子孫オオクニヌシ(大国主神)を祀り、毎年10月に神々が集まります／出雲市

神様の名は『古事記』『日本書紀』『出雲国風土記』で字が異なることとから基本的にはカタカナ表記にし、尊称を省略しています。



美保神社 オオクニヌシの子コトシロヌシ(事代主神、彥比古尊)を祀ります／松江市



実は親子「大国様と恵比寿様」(喜多見氷川神社の節分祭にて)



スサノオの八岐大蛇退治、左上は稲田姫 (月岡芳年・画「日本略史 素戔鳴尊」1887年)

# スサノオの 八岐大蛇退治

ヤマタノオロチ

日本には八百万の神様がいるといわれ、木・岩・山などの自然物、歴史上の偉人も神社に祀られています。氷川神社や須賀神社の祭神スサノオ(素戔鳴尊)は日本神話に登場する神様です。八岐大蛇退治を中心に調べてみました。



## 諸説あります

八岐大蛇退治については、大蛇の姿を度々氾濫した斐伊川(島根県仁多郡奥出雲町の船通山に発し出雲平野を通り日本海にそそぐ川)とその支流にたとえ、治水事業を大蛇退治だと考える説や、スサノオが大蛇を退治して剣を得ることから奥出雲のたたら製鉄集団と大和との抗争を意味するという説、元は山の神である蛇が田の神に会いに来た伝承だったのでないかなど、様々な説があります。



## 自宅でご先祖様さがし



Fさんの祖母イヨさんと姉サナさん親子

NHKテレビ「ファミリーヒストリー」 「日本人のおなまえ」の影響か、ご先祖様や家系図に興味を持つ人が増えているそうです。日本の戸籍制度は明治5(1872)年に始まり、現在取得できる最も古い戸籍は明治19(1886)年、この戸籍に記載された人からは戸籍で調べることができます。

Fさんの場合、①自分も両親も世田谷区に戸籍があるので、砧総合支所で戸籍謄本を取得(自分と両親とのつながりを示す確認書類になります)、②両親の従前戸籍がある自治体へ郵送で請求、③一方をさらに遡り請求しました。請求時の使用目的は「先祖を調べるため」、備考には「遡れるだけすべて」「手数料が不足する場合は追加で送ります」と書きました。期間は約3週間、手数料・切手代などの経費は約2万円。5代前の先祖まで判明し、もっとも古い先祖は文政8(1825)年生まれでした。Fさんは「一人ひとりにご先祖様がたくさんいると思うと、人に優しい気持ちになれる」と言っていました。

## 竹の花



竹山市民緑地の孟宗竹

今年、全国各地の東西1000kmにわたり、竹が枯れる現象が起こっています。竹はイネ科の植物で、1回花が咲いて枯れる性質があるのですが、竹は花が咲くまでの期間が長いという特徴があります。今年一斉に枯れている竹は淡竹(ハチク)という竹で、開花周期は120年に一度、生きている間に見られたらラッキーかもしれません。

喜多見で竹といえば喜多見五丁目の竹山市民緑地があります。多くは孟宗竹(モウソウチク)で、一部に真竹(マダケ)もあります。

真竹の周期も120年で、1960年代に一斉に枯れ、竹材が不足してプラスチック製品に置き換わったといわれています。次回は2080年代頃でしょうか。

孟宗竹は江戸時代初期に当時の清国から薩摩藩に移植され広まったとされています。67年目に開花したという事例が2つあるだけで、現状ではまだよく分かっていません。

私たちの身近にありながら謎の多い不思議な植物です。

## 主人公は「喜多見」



最新の医療機器とオペ室を搭載した専用車両

TBSドラマ「TOKYO MER～走る緊急救命室」(日曜21時)をご存じでしょうか。都知事の命で新設された救命救急プロフェッショナルチーム「TOKYO MER」の活躍を描く医療ドラマです。

登場人物(ベトナム人看護師を除く)の名字が、東京の地名になっていて、たとえば、厚生労働大臣は白金、厚生労働省医政局長は久我山、指導医は高輪、即応処部隊隊長は千住、危機管理対策室室長は駒場など。そして鈴木亮平さん演じる主人公のチーフドクターが「喜多見」なのです！

「喜多見」は驚異的な救命技術を持つスーパー救命救急医、「待っているだけじゃ、救えない命がある」という強い信念で、どんなに危険な現場でも瀕死の患者の元に飛び込んでいきます。医師の常識を超越した「喜多見」の救命行為は厚生労働省で問題視されてしまいます。

そんなドラマの中で、何度も「喜多見」が連呼され、喜多見の住民としてちょっと誇らしく思えます。

## サポーター募集



2019年4月の様子

長年活動を続けるうちに、運営メンバーの体力不足、老眼で小さな魚の種類が見分けられないなど年々課題が生じつつありますが…ポンポコが活動している場所は、子ども達が水辺に近づきやすい元野川の形状のまま平行移動するスライドダウンで整備された唯一の区間です(2011年度みんなの野川をみんなで作る)。

現在、一般参加の受け入れを休止し内輪で実施していますが、野川ガサガサ参加者からまた参加したいという声もあり、ここでの活動を何とか継続したいと考えております。

そこで、活動をサポートして下さる以下のような方を募集します。専門知識不要ですが生息環境に即した配慮のできる方、無償ですので可能な範囲で関わっていただければ結構です。

- ・水生生物の採集調査をする人
- ・野川の状態を写真で記録する人
- ・参加者の安全確認をする人

【詳細】<http://ponpoko.jpn.org>